



川口小だより

学校だより 第07-04号
令和 7年 6月 30日
八王子市立川口小学校
校長 石川 真一

「生きて…幸せになって…」 校長 石川 真一

イラクとイスラエルの争いが勃発し、中東情勢の緊迫化に伴い、人々が傷つくニュースが報道されています。人々を苦しめる争いが一刻も早く終結し、平和になることを願います。

さて、本校では6月30日を「八王子市のいのちの大切さを共に考える日」と決めて、各学級で道徳（生命の尊さ）の授業を行い「いのち」について考える日としました。子供たちの様子を見ると「死ね・殺す」と言ったり中指を立てて友達を傷つけたりすることがあります。時には、蹴ったり殴ったりすることもある…。この現状を変えたい。どんなことを伝えたら自分や友達の「いのち」を大切にしてくれるのか、悩みながら全校朝会で話しました。

「自分を大切に 友達も大切に」と大きく書いた表示を昇降口に掲示しています。その理由は、私が教えた子が自分でいのちを絶ってしまったことがきっかけでした。だから子供たちには、「生きて」。そして「幸せになって」と話しました。ちっぽけな私の願いですが、熱い思いをぶつけてみました。「生きていること」は、当たり前ではないのです。

あなたは、友達に「やさしい言葉をかけたり、仲良くしたりしていますか。」と改めて問いかけてみました。たった一つのかげがえのない「いのち」。「みんなで大切に守っていこう。」と話しました。クラスや学校で友達を傷つける「小さな争い」が起きないように。

そのためには、保護者・地域の皆様の御協力も必要です。子供たちが笑顔になれるよう力を貸してください。

「守る」ことができた静岡移動教室

5年生移動教室では、「時間・行動・話を聞く」というめあてを「守る」ことを意識させました。すると、バスや宿舎での過ごし方では、マナーも意識しながら過ごすことができ、友達とかかわることができました。茶摘みや力ヌー体験では、指導員の話聞いて安全に楽しく活動することができ、たくさんの笑顔を見ることができました。

特に、世界文化遺産「三保の松原」での「松がき」体験は、松林を守るために進んで清掃活動をした姿が印象的でした。

また、一人一人が担当した役割に責任をもち、みんなのために声を掛けたり協力したりする姿も見られました。めあてを「守る」ことができたので友達とかげがえのない思い出をつくることができました。



「貴重な体験 カヌー」



「環境保護活動 松がき」



「茶摘み・茶もみ」



三角食べに慣れよう